

市鍼だより

令和 8 年 3 月 第 2 号



[目次]

ごあいさつ	那須賢士郎	2
健康づくり推進市民会議総会報告	那須賢士郎	3
敬老奉仕活動	上ノ園高行	4
敬老奉仕活動について	川畑 裕人	5
第 42 回鹿児島市民健康まつり報告	中村みゆき	7
市民健康まつりに参加して	北村 公貴	8
技能功労者・青年優秀者技能者授賞式	那須賢士郎	10
技能功労者賞を受賞して	速水耕太郎	12
青年優秀技能者賞を受賞して	村上 大	13
市鍼会の新年会に参加して	高田あずさ	15
学術研修会のお知らせ	吉村 章治	16
施術所訪問記[第 12 回]	牧原 敏治	17

一般社団法人 鹿児島市鍼灸マッサージ師会

ごあいさつ

会 長 那須賢士郎

梅の花がほころび始め、春の兆しを感じられる季節となりました。平素より当会の活動に温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年度は、私たちの事業も活気を帯びた一年でした。会員の皆様と直接顔を合わせ、共に学び、地域に貢献する機会が増えたことを大変嬉しく思っております。

6月には、県民交流センターにて県鍼灸マッサージ師会との共催による生涯学術研修会を開催いたしました。第一線で活躍される講師の先生方から、技術の研鑽だけでなく、患者様の心身に寄り添う姿勢の重要性について深い学びを得ることができました。

10月の健康まつりのボランティア活動は、西原商会アリーナにて無事開催することができました。今年も多くの市民の皆様には施術を体験していただき、東洋医学への理解を広げる貴重な機会となりました。

11月には川商ホールにて市技能功労者・青年優秀技能者の表彰式が行われ、当会から速水耕太郎先生が技能功労者賞を村上大先生が青年優秀技能者賞を受賞されました。お二人の長年のご尽力に深く敬意を表するとともに、会としても大きな誇りであります。

敬老奉仕活動では、谷山・与次郎・吉野の高齢者福祉センターにてマッサージ奉仕活動を実施し、地域の皆様とのつながりを改めて感じる事ができました。依然として活動に制限はありますが、今後も地域社会への貢献を大切に、新たな形での取り組みも模索してまいります。

「はり・きゅう施設利用券」事業につきましては、今年度も多くの市民の皆様にご利用いただき、東洋医学の効果を実感していただく機会となりました。制度維持に向けては、顧問である市議会議員・いけやま美月様のご尽力に深く感謝申し上げます。三師会が連携し、必要に応じて陳情活動も視野に入れながら取り組んでまいります。

1月には、新年会を開催し、久しぶりに会員の皆様が一堂に会し、直接語り合える時間の大切さを改めて感じる機会となりました

来年度4月の総会には、より多くの会員の皆様にご参加いただき、活発な意見交換の場となることを期待しております。

結びに、今年一年のご協力に心より感謝申し上げますとともに、皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

健康づくり推進市民会議総会報告

総務部 那須賢士郎

令和7年9月30日(火)、かごしま市福祉プラザ5階 中会議室にて推進市民会議総会が開催されました。本会議では、健康増進計画に関連する以下の議題について話し合いが行われました。

会議の主な内容は令和6年度の推進状況報告として。市民啓発活動の拡充は、健康ニュースの発行、SNSによる情報発信、若年層向けの動画コンテンツ制作など、広報手段の多様化を図る- 地域連携イベントの支援は後援名義使用の承認を通じて、地域団体による健康イベントの開催を支援。参加者数は前年より増加。- 研修・交流の場の提供。年間を通じて4回の研修会を開催。団体間の情報共有と実践力向上に寄与でした。

令和7年度 of 取組計画案の発表具体的な年間業務計画(案)が示されました。今後も、鹿児島市全体で「健康づくりはまちづくり」の理念を共有し、官民連携による持続可能な取り組みを推進し、今後も市の取組に積極的に協力し、より良い健康環境の構築に貢献してまいります。そして、地域団体との協働による生活習慣病予防の実践、新制度「健康増進アドバイザー派遣事業」の試行開始、若者向け健康啓発コンテンツの開発と展開などを話し合い、参加者の意識と連携力の向上が図られました。

今後も、鹿児島市全体で「健康づくりはまちづくり」の理念を共有し、官民連携による持続可能な取り組みを推進してまいります。

敬老奉仕活動

情宣部 上ノ園高行

令和7年9月14日(日) 今年も敬老週間に合わせ、2回目となる高齢者福祉センター(与次郎・吉野・谷山)にて、鹿児島地区の敬老奉仕活動を実施させていただきました。

今回もインパクトのあるチラシを配布したり、あいさつ回りを徹底しましたので、各センターの職員さんも協力的でした。

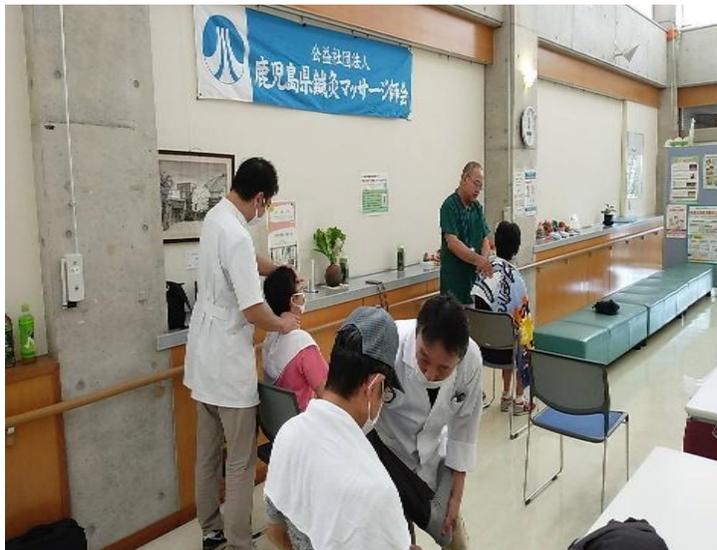
午前10時から12時までの2時間、下記12名の会員で、与次郎35名・吉野34名・谷山32名の合計101名の方々にマッサージを受けていただくことができました。

連休の合間にもかかわらず、ご協力いただいた会員の皆様には心より感謝申し上げます。



参加協力者

与次郎: 川畑裕人・西川保洋・川崎史絵・上ノ園高行
吉野: 有馬智志・田之上誠弥・吉村章治・那須賢士郎
谷山: 東直樹・道上大輔・竹ノ内幸弘・牧原敏治



治療奉仕活動について

会 員 川畑 裕人

令和7年9月14日(日曜日)10:00～12:00まで高齢者福祉センター与次郎で敬老奉仕活動が行われた。この会場での敬老奉仕は昨年に引き続き2回目の参加となる。今年は猛暑が続いており、当日も気温は朝からうなぎのぼりで既に30度を超え、更に湿度も高く、こんなに蒸し暑いのにお客は来るのだろうかという一抹の不安を抱えながらセンターへと車で向かった。センターに到着し、玄関で施術者(川崎史絵・上ノ園高行・西川保洋)と合流して4人で2階の会場に入り、早速当日のお客の名簿を見せてもらったが、予約表にはびっしりと名前が記載されてい

た。更に驚いたのは、会場等に貼られていた本会理事が作成した敬老奉仕活動のポスターだった。非常に色鮮やかで見栄えもよく見事な出来栄えだった。このような事前の準備及びセンター職員との打ち合わせ、更にはセンター職員の高齢者への声掛け等の努力が客の多さにつながったのであらうと思われた。



会場に入り早速椅子の準備や設営等を行い、20分前にはいつでも開始できる体制を整えたが、既に会場外にはお客がスタンバイして、まだかまだかと待ち構えていた。会場の広さはおおよそ6畳程度、正面には大きなTVが壁に掛けられていて、おりしも世界陸上が開催中で、そのTV中継を見ながら施術できるように4人分の椅子を並べたこじんまりとした配置となった。施術は一人10～12・13分程度。4(1時間あたりのお客数)*2(時間)*4(施術者数)=客総数32名の計算になるが、当日キャンセルが数人あったものの、逆に予約していない飛び込みの客もおり、最終的には35人を4名で行った。客の中には、去年私がマッサージしたんじゃないかなぁ?と思われる人やなんとなく見覚えのあるような(ないような)顔の人も2～3人いた。マッサージは初めて受けたか、主訴は腰・下肢という人など症状はさまざま、マッサージを受けながらじっと目をつぶって気持ちよさそうにしている人・楽し

そうに施術者と会話している人・真剣に症状の相談している人など千差万別だったが、皆(私を除く)ベテラン施術者はそれぞれの個性を出しながらお客の要望に上手に対応しており、施術終了後ニコニコ笑いながら満足そうに去っていくお客の姿が印象的だった。

この施設は卓球場やカラオケルーム、さらには温泉施設もあり、あるお客に聞いたところ週 2~3 回通っている人も多いとのこと、今回施術を受けた人も大多数がわりと元気でマッサージも強揉みの要望も多かったと思われる。私個人的には、普段の治療院での施術とは違い今回はあくまでも敬老奉仕の慰安マッサージのみと自分自身に言い聞かせながら黙々とマッサージを行った。TV の世界陸上中継が気になりながら施術を行っていた(私だけか?)が、気が付くと終了時間となった。今回のようなこじんまりとした治療奉仕は休憩はほとんどなかったものの、なんとなくアットホーム的でなかなか趣がありいいものであるなあと思った。センターから灼熱の外に出て皆と別れ車に乗り、ヒガンバナが咲きだしたというラジオ放送を聞きながら、猛暑が去って早く秋・冬が来ないかな・雪が待ち遠しいなとぶつぶつとつぶやきつつ帰路について。

第 42 回鹿児島市民健康まつり報告

事業部 中村みゆき

令和 7 年 10 月 12 日に鹿児島市医師会主催の第 42 回鹿児島市民健康まつりが西原商会アリーナで行われ、マッサージ体験コーナーを実施しました。鹿児島県鍼灸マッサージ師会の林先生が先頭にたって市内外の先生方にご協力を頂き、施術者 19 名、受付 2 名で午前 9 時から午後 4 時まで活動しました。1 人 10 分程の施術時間で合計 300 名の方々に利用して頂き、大盛況のうちに終了いたしました。

また、前回同様 MEDkids(メドキッズ)子供のお仕事体験も実施され37名の子供達にマッサージのお仕事体験をして頂きました。参加された以下 19 名の先生、受付の方々、誠に有難うございました。

参加者（敬称略・五十音順）

（鹿児島市）上ノ園高行、大勝孝雄、川崎史絵、北村公貴、竹ノ内幸弘、田之上誠弥、那須賢士郎、中村真二、中村みゆき、西川保洋、寶尺陽子、牧原敏治、松元健一、村上大、森本誠、佳元真一
（他地区）有村孝香、辻喜美男、林裕一、
（受け付け）上ノ園章子、住吉光輝



市民健康まつりに参加して

会 員 北村 公貴

令和7年10月12日（日）に鹿児島市市民健康まつりが西原商会アリーナで開催されました。今回初めて参加させていただき子供たちの職業体験メドキッズの担当となりました。

メドキッズでは子供たちが施術者となり、問診してそれを元に親へ施術するという内容でした。メドキッズには37名の子供とご家族に参加していただきました。

キッズブースは、あらかじめ用意していた問診体験とマッサージ体験をやっていただくという流れで行いました。まずは、保護者と対面で座り問診を行い、痛い部位を探してもらいました。患者様と話すということで何を訴えているかを聞き取り、人の話をよく聞くという事を学んでもらえればと思い、私たちもサポートしていきました。子供達が一生懸命に保護者から聞き取るところをみて微笑ましく感じました。また、話を聞きながらメモをとるという行動が少し難しかったようですが、ゆっくりでも最後までやってもらいました。

8つほどの質問を聞き取ってもらった後、マッサージ体験に移ります。保護者の後に立ってもらい、首肩から腕のマッサージのやり方を参加者に説明しながら実演していきました。その後、子供達に保護者へ施術してもらいました。まだまだ小さな手ですが、一生懸命施術していました。また、子供達から施術を受けている保護者の顔を見ていると、みなさんいい表情をされていました。我が子からうけるマッサージは格別なのだろうなと感じました。そんな親子の風景を見るだけで、このイベントに参加できてよかったと心より感じました。

家に帰っても家族にマッサージしてもらえるように、実技の説明が書いてあるプリントはプレゼントしました。午前・午後とも空きがまったくないほど体験にきていただき大変感謝しています。時間もあっという間にすぎた感じがしました。来年も参加したいと思いました。



技能功労者・青年優秀技能者授賞式

会長 那須賢士郎

令和7年11月28日(金)、川商ホールにて「技能功労者・青年優秀技能者授賞式」が開催されました。私はマッサージ師会の会長として参列し、鹿児島市が誇る技能者の皆さまを讃えるこの場に立ち会うことができました。

今年は技能功労者29名、青年優秀技能者11名、合わせて40名が表彰され、その中には私たちの仲間である速水耕太郎氏(技能功労者)、村上大氏(青年優秀技能者)の名前もありました。呼ばれた瞬間、会場に響いた拍手は、個人の榮譽を超えて、業界全体の励ましのように聞こえました。

紹介される一人ひとりの歩みから伝わってきたのは、技能が単なる技術ではなく、人の暮らしを支える心そのものだということ。癒しを届ける仕事も、生活を少しでも良くしたいという願いに支えられています。



式典を終えて感じたのは、技能は「積み重ね」と「継承」の両輪で成り立っているということ。長年の努力が礎となり、そこに新しい世代が加わることで未来へと広がっていく。鹿児島産業を支える力は、まさにこの流れの中にあるのだと思いました。

この日を通じて、技能の価値を改めて心に刻みました。灯された火を絶やさず、次の世代へと渡していく。その責任を胸に、これからも歩みを続けたいと思います。

技能功労者賞を受賞して

会 員 速水耕太郎

鹿児島市よりこのような名誉ある賞をいただき、感謝申し上げます。

これも鹿児島市鍼灸マッサージ会的那須会長をはじめ、会のお薦めがありましたお陰様だと感じております。なにより、授賞式のありました11月28日は、平成6年に店舗開業はじめました、記念の日でもありました。丸31年になります。重ねての喜びでした。今、開業させていただいている草牟田の地は、祖母が住んでいた家です。こちらにきて13年になります。

生前から、たーちゃん(私の呼び名)ここで開業しやい！が祖母の口ぐせでした。祖母の願いがある地でこうして開業させていただけるのも幸せだなあと感じております。

これからも鍼灸マッサージをとおして、患者様をはじめご縁あるみなさまに喜んでいただける働きをしていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



青年優秀技能者賞を受賞して

会 員 村 上 大

この度、鹿児島市青年優秀技能者賞という身に余る栄誉を賜り、心より御礼申し上げます。ご推薦くださいました鹿児島市鍼灸マッサージ師会の皆様に、深く感謝申し上げます。

私が鍼灸マッサージ師を志したのは、中学生の頃です。空手と学業を両立しながら、人の役に立つ医療職に就きたいと考えていました。そんな中、泊平八郎先生をはじめ、従兄姉や空手の先輩、高校の先生など、身の回りには八名もの鍼灸師がいらっしゃいました。その姿に触れるうち、鍼灸という仕事の奥深さや可能性を強く感じるようになりました。

柔道整復か鍼灸か迷いながらも、より汎用性が広く可能性を感じた鍼灸の道を選び、鹿児島鍼灸専門学校へ進学いたしました。学生時代は追試続きで決して優秀とは言えませんでした。家族や先生方の支えを受け、国家試験に合格できた日の喜びは今でも鮮明に覚えています。

平成 24 年 9 月、22 歳の時に本会へ入会し、同年 12 月、「セントラル治療院はりきゅう大心」を開業いたしました。独立当初は出張専門で、鹿児島市のデイサービスウェルカムにて機能訓練指導員の非常勤や運送業のアルバイトを掛け持ちしておりました。

平成 28 年、結婚を機に下伊敷へ移転し、訪問マッサージを中心にしておりましたが、売上や雇用面で上限を感じるようになりました。妻が看護学校を卒業した令和 4 年、思い切って方向性を変え、鹿児島中央駅近くへ移転。『美容鍼とダイエット専門院』として新たな挑戦を始めました。オープン当初は苦労も多く、リピート率が伸びず試行錯誤の毎日でしたが、患者様や周囲の方々に支えられ、今では二名の鍼灸師を雇用でき業界発展への一歩が踏み出せたと感じております。

県師会では、入会から 14 年間で生涯研修会 63 回、ボランティア活動 12 回に参加。26 才～学術委員、28 歳～理事、副学術部長、

保険指導委員、31才～副会長・学術部長として会員の先生方への役職を通じて、多くの先輩方から学び、支えていただきました。

私が師会に所属し続ける理由はただ一つです。

「この偉大な鍼灸マッサージを、より多くの方に広め、業界発展の力になりたい」その思いが、これまでの挑戦の原動力であり、今後も変わることはありません。

今回の受賞は、那須会長をはじめとする諸先輩方、無茶な挑戦ばかりの私を支えてくれた両親と妻、そして技術も知識も未熟だった頃から身体を預けてくださった患者様のおかげです。心より感謝申し上げます。

この賞に恥じぬよう、今後も鍼灸マッサージ業界の発展と地域への貢献に努めてまいります。



鹿児島市鍼灸マッサージ師会の新年会に参加して

会 員 高田あずさ

先日、鹿児島市鍼灸マッサージ師会の新年会に初めて参加させていただきました。

これまでお名前や活動は存じ上げていたものの、直接お話しする機会がなかった先生方と同じ場を共有できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。

会場では、長年この業界を支えてこられた先輩方が、和やかな雰囲気の中にも確かな信念を持って鍼灸について語り合われており、その輪の中に自然と迎え入れていただけたことを大変ありがたく感じました。年齢や経験に関わらず、同じ鍼灸師として温かく接していただいたことが印象に残っています。

特に心に残ったのは、先生方がこれまで積み重ねてこられた経験談や、鍼灸の可能性、そしてこれからの業界の在り方についてのお話でした。時代や環境が変化する中でも、鍼灸の価値を守り、必要とする人に届け続けようとする姿勢から、多くの学びと刺激をいただきました。

これから自分はどのように鍼灸と向き合い、社会に貢献していくのかを考える中で、今回の新年会は、自身の立ち位置を見つめ直す大きなきっかけとなりました。

先輩方が築いてこられた土台の上で、次の世代へとつなげていく役割を少しずつ担っていきたい、そして微力ながらも鍼灸業界全体を盛り上げていきたいという思いを新たにしております。

このような貴重な場を設けていただき、また温かく迎えてくださった先生方に心より感謝申し上げます。

今回のご縁と学びを今後の臨床や活動に生かし、鍼灸師として一層研鑽を重ねてまいります。



令和8年度 鹿児島鍼灸マッサージ師会

～学術研修会のお知らせ～

学術部 吉村 章治

このたび、前回大変ご好評をいただきました、YNSA（山本式新頭鍼療法）学術研修会の第二弾を開催する運びとなりました。

前回は、「即臨床で使える」「理論と実技のバランスが素晴らしい」「患者反応が非常に良い」といった多くの反響を頂戴し、再開催のご要望を多数お寄せいただきました。

そこで今回は、さらに内容を充実させ、臨床応用の幅を広げられるように前回のイントロダクションから基礎編として開催いたします。

講師には前回に引き続き、**富田 祥史 先生**をお迎えいたします。富田先生は、YNSA の理論と臨床応用に精通され、わかりやすく、かつすぐに現場で活かせるご指導に定評があります。

*前回ご参加された方はもちろん、初めての方にも安心してご参加いただける内容となっております。ぜひこの機会に、“**結果につながる YNSA**”を臨床に取り入れてみませんか。

皆さまのご参加を、心よりお待ちしております。

日時 令和8年6月21日（日）10：00 から 15：00
場所 宝山ホール 〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町5-3
鹿児島県文化センター電話 [099-223-4221](tel:099-223-4221)
講師 康祐堂あけぼの漢方鍼灸院 富田 祥史（とみた よしふみ）先生
演題 「第2回 YNSA（山本式新頭鍼療法の実践（仮）」
午前 理論 午後 実技

「施術所訪問記」（第12回）

丸田はりきゅう療院

取材：牧原敏治

取材日：2026年（令和8年）2月14日（土）

住所：〒890-0082 鹿児島市 紫原 5-15-20

TEL. 090-8669-3593

丸田はりきゅう療院

丸田廣美 先生



丸田はりきゅう療院は、市道紫原中央線に面した所にあります。KTS（鹿児島テレビ局）前から田上台方面に向かって進むと、三つ目の信号すぐ手前の左側に丸田ビルがあり、その1階が治療院となっています。道を挟んだ反対側のすぐ近くには、紫原中学校があります。

先生は、お父様が会社員をされていたご家庭に1954年（昭和29年）5月に五人兄弟の2番目の次男として伊集院で誕生されました。現在71歳でいらっしゃいます。



産まれながらの弱視でいらっしゃいましたが、ある程度は視力があつたので小学校・中学校と公立の学校に通われました。しかし中学卒業後に、将来の為に点字を学ぶ必要があるとして、周りの勧めもあり鹿児島県立盲学校に進まれました。ここで2年間学ばれましたが、日々の授業や校風になじめずにやめてしまわれました。そしてその後、鹿児島鍼灸専門学校（以降、鹿鍼と表記）に入学され、最初の2年間は〔あんまマッサージ指圧〕を学ばれて、続く3年間で〔鍼灸〕を学ばれ、5年間の過程を経て卒業されました。

〔あんまマッサージ指圧〕のクラスには35名程の生徒がいましたが、2年間の過程を終えると10名程がそこで卒業し、その後の〔鍼灸〕のコースには25名程が進学されたそうです。

クラスには、学校を卒業したての同年代の人から、上は50代の社長さんや会社員をされていた方など、年齢がそれぞれ離れていたり色々な職業出身の方達がおられたそうです。そして授業以外でもソフトボールをしたり、いっしょに遊びに行ったりして、和気あいあいとした居心地の良い5年間を過ごされたそうです。

〔あんまマッサージ指圧〕の過程を卒業した後は、同免許もあつたので、授業の無い時は、病院などでマッサージのアルバイトもされました。

1977年（昭和52年）3月に、鹿鉦を卒業された後は、指宿の整形外科の病院に就職され、ここで4年半程勤められました。この病院は来院者数が多くて、先生達が担当されていた鉦（パルス鉦が中心）やマッサージの部所には、1日に多い時には200人近い程の患者さん達が来られることもありました。これを4人程の施術者と数名の助手の方達とでさばかなければなりません。月曜から金曜日の平日は朝8時30分から夕方6時まで、そして土曜日は4時までと、とても忙しく時には昼食を食べる暇も無い程だったそうです。その分給料は他の所と比べて良かったそうですが、無理がたたってしまったのか、視力が0.1あった右眼の網膜剥離を発症されてしまいました。それで1年間休職され、鹿大の病院に10ヶ月程入院されて4回手術を受けられました。しかし手術の痛みも無く、うまくいかずに右眼を失明されてしまいました。この時に、視力が0.02あった左眼が『見えるんだ』という感覚が初めてあり、改めて左眼の存在を再認識されたそうです。そして歩いて移動したりするぶんには支障は無かったので助かったそうです。しかしその後、55歳の時に白内障の症状が出て来て病院に行かれましたが、先生の眼の状態では手術は困難ということで、両眼ともに失明となってしまいました。

網膜剥離で入院、手術そして退院された後、近くに居て欲しいというご両親の要望もあり、1982年（昭和57年）鹿児島中央駅近くの泌尿器科もある整形外科の病院に勤めることになり、ここでは3年間程勤められました。指宿の病院に比べて給料は少し安かったものの、4人の施術者に2人の助手と仕事の体制はほぼ変わらずに、こちらの病院では対応する来院者数は約半分程となり、負担が減りだいぶ楽になったそうです。その後、病院の規模が段々と拡大して来て、整形外科の部所を別の建物に移転する話が出て来た時点を契機に病院勤めをやめて独立されることを決意されました。

1986年（昭和61年）奥様の実家のあった紫原の現在の地にビルを建てられて開業されました。そして独立と同時に、私達の鉦

灸マッサージ師会にも入会され、その時からこれまでに 40 年もの月日が流れました。この間先生は5年程当会の理事も務められ、無免許業者に対応する業権の仕事やマッサージの各種奉仕活動などにも取り組んで来られました。

開業当初の1年は、来院者数も少なくでこれでやって行けるか心配されたそうです。しかしその後、来院される数も段々と増えて来ました。診療時間は現在午前9時から午後6時までとなっていますが、当時は朝8時より夜の8時まで、みっちり仕事をされることもあるようになりました。施術時間は開院当初から変わらずに、来て頂いた患者さんに十分に納得して頂ける施術が出来るように、一律に1時間を設定されています。

来院される患者さんは、肩こりや腰痛などを訴えられる方が大部分だそうです。中には強刺激での施術を求められる方もおられるようですが、強刺激で施術した場合に、後で揉みあたりなどの悪い結果を引き起こすこともあるので、強刺激での施術はやらないようにされています。また肩こりや腰痛などのある患者さん達は、全身のバランスが崩れているので、それを矯正する為に下半身、主に大腿部の筋群のストレッチなどを用いた施術も心掛けておられるそうです。

身体のきつい部分があると、そこに手を添えて貰うだけでも、あるいは話を聴いて貰うだけでも、そこにあった緊張や痛みが緩和されて楽になることがあるように、先生は患者さんとのコミュニケーションがとても大切であるとおっしゃっています。そういうことも含めて、施術時間を1時間とされているようです。

最初とはび込みで来院された患者さんでも、この様な先生の施術を受けられて遠く離れた大隅半島の大崎町から 25 年間も来院されている患者さんもおられるそうです。80 歳代の男性で多い時には毎週ごとに来られていたそうですが、現在は1ヶ月半に1回程来院されているそうです。同じように川辺町からも 20 年間来られているやはり 80 歳代の男性の患者さんなど、他に遠くから定期的に来院される方が数名いらっしゃるとのことでした。

これまでに来院された方の症例で、特に印象に残っている患者さんがおられるそうです。癌の末期の患者さんで、最後に先生を頼って来院されたそうです。先生はその患者さんに鍼の施術をされましたが、鍼を刺入した時に受けた感覚が、卑近な例になってしまいますが、腐ったミカンに鍼を刺すような感じで、何の抵抗も無く鍼が刺入されたそうです。1週間後にはその方がお亡くなりになったと人づてに聞かれたそうです。

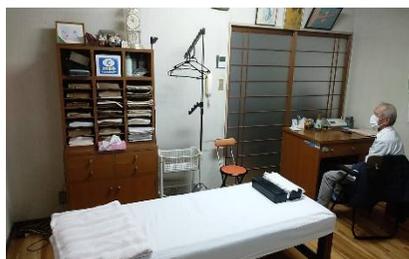
【診療時間】

月～土：午前9時～午後6時

<休診>日曜日、祝日、お盆休み、正月休み

【治療形態】

病歴や病状、そして各症状について詳しく問診を行い、それらの病状改善に向けて患者さんにじっくりと向き合った施術を行う。現在は鍼とあんまマッサージ指圧の施術のみでお灸の施術は行っていない。



【治療時間】

開院当初より一人一人の患者さんに満足頂ける施術を行う為に、治療時間は1時間としている。

【往診】

開院当初は行っていたが、現在往診はしていない。

先生には四人の息子さんがいらっしゃいます。奥様とは盲学校に進学された時に同じクラスで2年間いっしょに学ばれたそうです。奥様は、小さい頃から盲学校で学ばれ、その後ここで鍼灸あんまマッサージ指圧の勉強もされて資格も取得されました。しか

し先生の治療院で、これらの施術のお仕事をされることは無くて、家事や子育ての専業主婦をされていました。このような奥様でしたが、先生が 54 歳で奥様が 51 歳の時に病に倒れられてお亡くなりになってしまいました。この時、一番下の息子さんは中学 1 年生だったようで、このようなお子様達を残され旅立たれた奥様の思いはいかばかりであったかと思われます。奥様の亡き後は、週 2 回程は家事のヘルパーさんに来て頂いたものの、残りの日の食事や掃除、洗濯などの仕事が、先生の従来の治療院での仕事に加わり苦労されたそうです。当時中学 1 年生だった息子さんも現在では 30 歳となられ、四人の息子さん全員社会人として独立されています。



先生は 48 歳の時にランニングを始めて現在も継続されおり、走るのがとても楽しみだそうです。今年の 1 月に行われた [いぶすき菜の花マラソン] にも、ボランティアの人に伴走してもらい参加されました。また来月の 3 月 1 日に開催される [鹿児島マラソン] にも参加される予定です。1 週間に 1 回のペースでボランティアの人に伴走してもらい 15 から 20 km ぐらい走られています。またこれらの為と健康維持の為に、毎日、朝の 5 時半から 7

時頃まで、近くの公園まで行き柔軟体操やストレッチなどの運動をされています。これは、ランニングを始められた当初からで、もう 23 年になるそうです。このような努力もあり、インフルエンザにかかるようなことも無く、身体は元気に健康体を保っておられます。

コロナ禍が過ぎた現在、来院される患者さんの数は以前までには回復していませんが、これからも、細くても長く今の仕事を続けて行きたいとおっしゃっています。



発行所 (一社) 鹿児島市鍼灸マッサージ師会 情宣部
(公社) 鹿児島県鍼灸マッサージ師会館内
〒 890-0015 鹿児島市草牟田町8-4